

# 平成28年の成田空港貿易概況について

## ●「平成28年分 成田空港貿易概況(速報)」

1月25日に東京税関から『平成28年 成田空港貿易概況(速報)』(※1)が発表されました。

これによると、成田空港における輸出は4年連続の増加、輸入は5年ぶりに減少、輸入超過は6年連続となりました。今回は、東京税関の資料から平成28年の成田空港の貿易概況を振り返ります。

## ●輸入超過額は2兆2,743億円

平成28年の成田空港における輸出額は、9兆350億円(前年比1.4%増)で、4年連続の増加となり、全国空港比では55.1%を占めています。また、輸入額は11兆3,092億円(同10.3%減)で、5年ぶりに減少しました。全国空港比は66.8%です。

輸出入の総額は、20兆3,442億円(同5.5%減)で、全国空港比は61.0%。輸出入の差引額は▲2兆2,743億円であり、6年連続の輸入超過となりました。

地域別輸出入の動向をみると、対米国の輸出額が1兆5,611億円(対前年伸率▲11.3%)、輸入額は2兆3,477億円(同▲10.7%)でした。

対EUでは、輸出額が1兆2,302億円(同15.1%)、輸入額が2兆7,197億円(同▲10.1%)。

対中国(※2)では、輸出額が2兆4,362億円(同▲3.6%)、輸入額が2兆7,775億円(同▲9.9%)。

対ASEANでは、輸出額が1兆5,089億円(同▲0.5%)、輸入額が1兆2,246億円(同▲6.0%)でした。

米国は輸出入ともに2桁の減少となり、EUは輸出が2桁増加、輸入が2桁減少しました。中国、ASEANは輸出入ともに減少となりました。

## ●半導体等製造装置の輸出増、通信機等の輸入減

主要輸出品目についてみると、半導体等製造装置が6,292億円(同18.7%)、科学光学機器が5,333億円(同▲

9.6%)、ICが3,558億円(同▲19.6%)となりました。

主要輸入品目については、通信機が1兆6,230億円(同▲6.1%)、医薬品が1兆4,046億円(同▲14.3%)、ICが1兆763億円(同▲10.2%)でした。半導体等製造装置の輸出が増加する一方で、通信機および医薬品の輸入が減少し、ICは輸出入ともに減少しました。

## ●主要品目の動向について

成田空港における主要輸出入品目の特徴的な動向に目を向けてみると、2016年も輸出主要品目の1位であった半導体等製造装置は、金額ベースで全国の輸出入金額の約3割を成田空港が占めています。

輸出入金額の推移をみると、成田空港の輸出入金額は2014年以降増加を続け、2016年は前年比18.7%増の6,292億円となりました。

また、通信機(スマートフォン等)の輸入は、金額ベースでは全国の輸入金額の約6割を成田空港が占めています。

輸入金額の推移では、2015年までは増加傾向でしたが、2016年は前年比▲6.1%と減少に転じました。

通信機には様々な品目が含まれますが、品目別では携帯電話の占める割合が最も多くなっています。品目別の割合の推移をみると、2007年には携帯電話の割合は14.4%でしたが、年々割合が増加し、2013年以降は7割近くを占めるようになっていました。輸入が増加するのは2006年頃からで、2010年頃からのスマートフォンの普及により、輸入が急激に増加したようです。

「平成28年分 成田空港貿易概況(速報)」のより詳しい資料は、東京税関ホームページ(<http://www.customs.go.jp/tokyo/etu/ftp/tokusyuu.htm>)からご覧いただけます。また、資料に関するお問い合わせは、東京税関調査部調査統計課(03-3599-6385)までお願いします。

(※1)『平成28年分 成田空港貿易概況』は、成田航空貨物出張所および東京航空貨物出張所の各官署の通関額。(※2)対中国の貿易には、対香港および対マカオの貿易額を含む。

## COFFEE BREAK

来たる2月24日(金)から「プレミアムフライデー」がスタートします。これは、官民が連携して、月末の金曜日は早めに仕事を切り上げ、買い物や家族との時間、旅行など、幸せや楽しさを感じられる豊かな月末を過ごそうという新たな取組です。働き方やライフスタイルを変えていく動きの一環で



## プレミアムフライデー

もあり、個人が豊かな時間を過ごすことで地域等のコミュニティ機能強化や、デフレ的傾向を変えらるきっかけ作りなどにつなげようとするものです。この動きに対応し、ホテルや旅行業界など各業界で新たな顧客獲得の企画がみられます。特別な金曜日がどんな影響を与えるのか、注目されます。